

京都の土産を不便にしてみました

京都先端科学大学

川上 浩司

不利益とは「不便だからこそ得られる益」です。不利益にまつわる話の連載をしています。ここ数カ月は、大学の演習で学生たちと考えだしたり団体の研修で参加者たちと一緒に思いついたりした「ユーザーに不利益を与える製品やサービス」を紹介しています。今月も、その続きです。

京都大学サマーデザインスクールは、3日間集中でデザインワークをする年に一度のお祭りです。京大の先生や企業か

らテーマをテーマに参加者を募りました。その時に出たアイデアの一つが「不利益な京土産」です。

デザインワークを始める時の定番は、デザイン対象に浸るフィールドワークです。スクールの初日に参加者たちは、京都観光をしている人たちを観察するため、JR京都駅に向きました。そこで見聞きした情報を参加者たちが互いに交換するのですが、その時に出てきた情報の中の一つに、お土産の豊富さがありました。

京都旅行の帰り際、新幹線に乗り込む直前に、適当にひよいと定番のお土産が買えてしまうJR京都駅は便利すぎないか、と考えた参加者がいたので。本来、お土産は思い出とともにあるべきな

らテーマが集められ、各テーマに5〜6人の学生や一般参加者が集い、新しいプロダクトやサービスをデザインします。コロナ前は20以上のテーマが集まりました。コロナ禍の時は細々となりましたが、昨年からは復活しています。

「不利益」も、ほぼ毎年テーマを出していました。以前に紹介した「素数ものさし」「京都で左折オンリー街歩き」などは、このデザインスクールで発案されたものです。ある年、「不利益がある京

のに、駅で買うお土産には思い出なんか詰まっていない、と言うのです。確かにその通り。私も同感です。

さて、ここで不利益の出番です。参加者たちは、京土産を買うことを「不便」にすることによって、お土産が思い出と共にあるという「益」が得られるようなサービスをデザインすることにしました。スクールの2日目に、参加者たちから様々なアイデアが飛び出し、その実現方法が検討され、結局スクールの最終日にプレゼンするアイデアは数個に絞られました。

そのうちのひとつが、本店まで足を運ばねば買えなくする方策でした。これは面白い！ぜひ実現したい！と考えた私は、京都市に相談をもちかけました。す

ると、京都市は烏丸御池にある広告会社とつなげてくれました。社長（現在は会長）自らご担当いただき、スクールで出たアイデアは、以下のように育ちました。

まず、京都駅に降り立った観光客は、風呂敷と老舗菓子屋の本店が書いてある地図を購入します。そして、本店まで足を運んでお菓子を買えば、本店は風呂敷にお菓子を詰められます。次に別の店の本店に足を運べば、その店のお菓子も同じ風呂敷に詰められます。

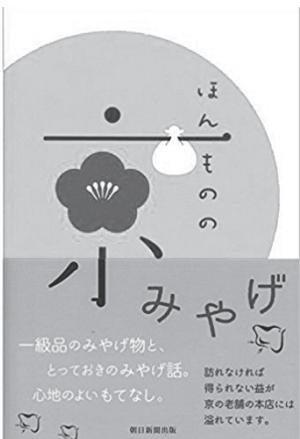
京都に詳しい人に言わせると、別々の老舗のお菓子が同じ入れ物に詰め合わせられることなど、あり得ないのだそうです。ですから、この特別な風呂敷に入っているお菓子の詰め合わせは、とても珍しいものになります。この珍しいお土産

を手に入れるために、観光客は本店を巡ります。

これは、駅に並んでいるお菓子を買うことと比べれば不便な買い方ですが、本店を巡る道中の思い出がお土産と紐付くという「益」が得られます。本人にとっては、珍しい土産を入手することが主目的かもしれませんが、不便益の一つという副産物も得られるのです。

不便益的京都土産の企画がここまで固まったところで、駅構内に風呂敷売り場を作るために京都市交通局に相談に行ったり、懇意にされている老舗菓子屋に企画を持ち込んだりと、社長には色々動いていただきました。ただ、最終的には、風呂敷のアイデアは実現できませんでした。

実現したのは、「ほんものの京みやげ」という本です。平均28年ほど暖簾をつなぐ京都きつての老舗が18店舗ほど協力してくれました。最古の店の創業は1392年です。さすが京都。花の御所の時代です。これらの老舗の紹介と地図、そして御朱印帳のごとく老舗本店で印をおしてもらえるページから、この本は構成されています。



珍しい詰め合わせが作れるというアイデアは実現しませんでした。御朱印帳

と同じような方法で、この本は老舗本店に行くことを観光客に動機づけていきます。この方法でも、本店を巡った思い出と土産が紐づくという不便益は得られそうです。そして、旅から帰ってお土産をだれかに渡すときには、思い出話に花が咲くでしょう。お土産が思い出のお裾分けになるのです。

余談ですが、これほどの老舗に協力してもらえるなど、京都で古参の広告会社の社長の人脈の広さや人望は、すごいと思います。京都市に紹介されたのも領け

川上浩司（かわかみひろし）

一九六四年生まれ。京都大学工学部、同工学研究科修了。京都大学助教授・特定教授などを経て京都先端科学大学工学部教授。不便益の研究で学会論文賞、出版賞多数。著書に『不便益という発想』（二〇一七）など多数。